

第2回 畠山公開シンポジウム

アメリカのジャポニスム

－日米文化交流の歩みと知られざる偉人・執行弘道－

開催趣旨 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのアメリカにおける日本受容とその影響の跡は、我々の想像をはるかに超える大きなものでした。しかし、「ジャポニスム」と呼ばれたこの多方面にわたる混沌とした現象は、ヨーロッパの亜流にしか過ぎなかったのでしょうか。今回のシンポジウムでは、アメリカのジャポニスムを歴史的に振り返り、その独自性を明らかにするとともに、橋渡しとなった仲介者や紹介者たちの業績を掘り起こします。



(ルイス・C. ティファニー作 「人物のいる風景」)

主催： ジャポニスム学会

共催： 公益財団法人 畠山文化財団

期日： 2012年11月17日(土)

場所： 東洋文庫ミュージアム 2Fホール

(東京都文京区本駒込 2-28-21

<http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/>)

時間： 10:00 - 18:00 (開場 9:40)

☆一般公開シンポジウムですので、非会員の方も参加できます。

開会の挨拶 ジャポニスム学会会長 坂本 満

財団法人東洋文庫文庫長 斯波 義信

第1部 アメリカのジャポニスム (10:10-12:30)

司会：中地 幸 (都留文科大学教授)

基調講演 児玉 実英 (同志社女子大学名誉教授)
「アメリカのジャポニスム—その歴史と注目点—」

発表1 塩崎 智 (拓殖大学教授)
「日本文化発信者としての幕末維新期の米国留学生」

発表2 金田 由紀子 (青山学院大学教授)
「ニューヨークのジャポニスム—20世紀初頭のアメリカ美術—」

第2部 美術工芸におけるジャポニスムと 陰の功労者、執行弘道 (14:00-17:00)

司会：羽田 美也子 (日本大学講師)

発表3 五味 良子 (名古屋市博物館学芸員)
「アメリカにおけるジャポニスムの陶磁器」

発表4 大久保 美春 (比較文化研究者)
「エドワード・モース、フランク・ロイド・ライトと
執行弘道」

---- 休憩 10分----

発表5 樋田 豊郎 (秋田公立美術工芸短期大学学長)
「起立工商会社のニューヨーク支店」

発表6 岡部 昌幸 (帝京大学教授)
「執行弘道と日米における美術振興の発展」

第3部 パネルディスカッション (17:10-18:00)

司会：ジャポニスム学会理事長・

帝京大学教授 岡部 昌幸

ディスカッサント：

第1部・第2部 講演者・発表者

閉会の挨拶 ジャポニスム学会事務局長・

文化学園大学教授 高木 陽子

☆最寄駅は JR・東京メトロ南北線「駒込駅」

および都営地下鉄三田線「千石駅」。

☆会員は無料、非会員は資料代として500円。

☆18:20より会場内オリエントカフェにて懇親会
(会費制)を行います。お気軽にご参加ください。

☆お問合せ・申込み先：ジャポニスム学会

<http://www.world-meeting.co.jp/japonisme/>